

🌲 大杉谷国有林からの手紙 🌲

25通目 ～尾鷲林業物語を未来につなぐために！～

平成29年も残すところあと僅か。
ここ大杉谷国有林は、例年よりも早い寒波の訪れで、すっかり冬となり、静かに春の訪れを待っています。
さて、今回の手紙では、今年の9月から11月に、三重県立熊野古道センター（尾鷲市）と開催した「**尾鷲林業物語～森林鉄道と索道の軌跡～**」について、ご紹介します。

この企画展は、2017年3月に、日本農業遺産第1号として、「急峻な地形と日本有数の多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業」が認定されたことを記念して、開催されました。

企画展では、尾鷲林業の歴史とその発展に重要な役割を果たした「森林鉄道」と「索道」に焦点をあて、当時の写真や文献などの記録や資材を展示し、約2ヶ月の開催期間に1万5千人超の皆さんが訪れました。

以前、この手紙でも、署が保管している写真などを使って、大杉谷国有林での森林施業や森林鉄道などをご紹介しましたが、今回の企画展では、古道センターの皆さんが、新たに現地踏査を行い、残されていた森林鉄道のレールなどを回収し展示したことで、当時の面影をより実感できるものとなりました。

ここで、この企画展を企画し現地調査をされた古道センターのコーディネーターの橋本博さんのお話をご紹介します。

「元来、尾鷲林業というものは奥山の急峻な森林でおこなわれた営みであって、容易に行くことができなかったため、地域の方々に具体的な実情はあまり知られていませんでした。



雪道を通して間伐作業が進められています。



当時の資材や記録を前に皆さんの目が輝いていました。

さて、なぜ今、この企画展を開催したのというと尾鷲林業の発展を担った軌道や索道に従事した人が高齢になり、先人の偉業や足跡がこのまま風化してしまわないように、この機会に聞き取り調査や現地踏査を行い、記録に残そうというのが、私の想いでした。

では、実際に開催した企画展示の反応はというと、地域住民はもちろんのこと全国各地から会場に足を運んでいただき、想像以上に反響があった展示でした。

これは尾鷲林業に加え、森林鉄道や索道といった独特な産業形態であることに加え、この産業遺産や遺構に対して高い関心を持つ人が非常に多いということです。展示には、搬器やレール、プーリー（滑車）など実際に使われていたものを現地から運び込み展示しました。先人が使い、そして命を托した資料が訴えるものは力強い何かが存在しました。

尾鷲林業の発展は、国有林をはじめとする官民一体となって成立していったと考えられますが、この企画展をきっかけに尾鷲林業がますます発展することを願い、また我々地域住民にとっても森林との正しい付き合い方を再認識する良いきっかけづくりになったのではないのでしょうか。これからも一緒に、尾鷲林業の良さを、森林の素晴らしさを伝えていきましょう。」とのことでした。

今回の企画展にあたり、私としては、先人の皆さんが大杉谷国有林を舞台に綿々と営んできた森林づくりについて、多くの皆さんに知ってもらえる機会になればと考え、倉庫から資料を探したり、OBの皆さんにお話を聞いたり、できる限り頑張ってみました。

来年も、この手紙を通じて、多くの皆さんに、大杉谷国有林の歴史、姿、声、魅力を知ってもらい、尾鷲林業物語を未来に繋いでいけるよう、これからも全力で取り組みますので、皆様のご声援、引き続き、よろしくお願い致します。

それでは、皆さん、良いお年をお迎えください。

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)



講演会で話をされる橋本氏



当時の面影を伝える展示物の数々